

授業内外の学習を接続する絵本作成(Ⅱ) —絵本作成と読み聞かせの実践を参照しながら—

野中陽一朗 (高知大学教育学部)

Development of the picture book connecting in-class learning and out-of class learning(Ⅱ): Referring to constructing and reading picture book

Yoichiro Nonaka (Faculty of Education, Kochi University)

要約

本研究は、授業内外の学習を接続する一方策として絵本作成を取り上げ、受講生が授業外学習を活用して作成した絵本を授業内学習で活用する実践を行った。本研究における絵本の授業内学習での活用は、作成した絵本の読み聞かせ実践に基づく省察を介し、絵本の読み聞かせスキル向上を目指す探索的な試みであった。具体的な省察手法は、受講生自身による作成した絵本の再考、読み聞かせ実践、当該場面を録画したビデオ映像視聴による観点を定めた自己評価及び他者評価に基づくものとした。実践研究の結果、受講生が授業外学習で作成した絵本の特徴、受講生のビデオ映像視聴に基づく自己評価及び他者評価の特徴、受講生の省察により見出された課題を明らかにした。以上の結果を踏まえ、授業外学習で絵本作成を行う上で必要となる学習支援、授業内学習で絵本の読み聞かせスキル向上に寄与するビデオ映像視聴を活用した省察の手法に関する考察を行った。

キーワード：絵本作成、読み聞かせ、授業外学習、授業改善、省察

I 問題と目的

大学教育における質保証の観点から、単位制度の実質化が叫ばれるようになって久しい。単位制度の視点に立脚すれば、単位取得には、授業時間とその前後に伴う予習及び復習を総括した学修に必要な時間数が定められている。こうしたことを背景として、大学生が実際に受講する授業(授業内学習)だけでなく、授業外での予習や復習も踏まえた様々な学習(授業外学習)にも着目した研究が遂行されている(野中,2016)。そのため、大学教育に携わる者は、大学生の学びを誘う際、授業内外の学習を包括的に捉えた授業デザインを検討することも1つの方策といえるだろう。無論、全ての授業に万能な方法があるわけではなく、対象とする大学生の実態、授業内容及び目的に応じた工夫が求められる。一方、前田・加藤・坂田・橋本(2015)は、高等教育機関における専門職養成が様々な変化に直面していること、保育士において最も重要とされる知識・技術・態度が「子ども」を中心として確立されており、他の専門職とは異質性を有することを指摘している。この知見は、幼児期における教育の重要性が叫ばれることに付随し、保育者養成にますます注目が集まっていることに鑑みれば、保育者養成という目的に着目した授業デザインを検討していくことの重要性を示唆するものといえよう。また、保育を取り巻く社会情勢の変化や2017年3月31日に改定された保育所保育指針を背景として、保育士養成課程等検討会(2017)は、保育者養成の枠組みにおける教授内容を見直す方向性を定めている。そのため、保育者養成に携わる者は、これからの保育者に求められる知識・技術・態度や教授内容を把握するとともに、授業内外の学習を包括的に捉えた授業改善を行い、大学生の学びを誘っていくことも求められる。それでは、保育者養成の枠組みにおいて、焦点が置かれてきた内容あるいは授業改善の取り組みとしてはどのようなものがあるのだろうか。

保育者養成機関には、実践力を有した保育者の養成が求められていることは言うまでもない。こうした中、保育所保育指針、幼稚園教育要領そして幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記された(厚生労働省,2017; 文部科学省,2017; 内閣府・文部科学省・厚生労働省,2017)。無藤(2018)は、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保育内容のねらいに基づき活動全体を通して資質・能力が育まれた修了時の姿であることだけでなく、保育実践に取り組む上で考慮すべき重要なものであることを指摘している。なお、山田(2017)は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育てる有効な保育教材として絵本を取り上げるだけでなく、絵本に関するアンケート調査を実施している。その結果、調査対象者である学生の9割以上が保育実習の中で絵本の読み聞かせを経験していること及び読み聞かせる絵本の選定理由が明らかにされるとともに、保育を目指す学生には、絵本の魅力を味わう体験、絵本の知識を得ること、読み聞かせの技術を身につけること、子どもたちと絵本を共に楽しむ感性をもつことといった4つの観点を育成することの重要性が示されている。こうした視点に立脚すれば、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」という教育目標を果たす有効な教材である絵本に着目し、授業での活用を検討することは、保育者養成の授業改善に繋がるものになると考えられる。それでは、保育者養成の中で絵本を活用した授業実践としてどのようなことが検討されてきたのだろうか。

保育者養成の中で絵本を活用した授業実践には、受講生の絵本に対する意識や読み聞かせに関する実態を捉えようとしたものが多い。例えば、千古・中條(2009)は短期大学生及び大学生433名を対象としたアンケート調査より、大部分の学生が絵本を聞く側としての経験を有していること、9割以上の学生は絵本の読み聞かせに教育的効果があると考えていること、記憶に残っている絵本のタイトルや当該絵本から学べた内容を明らかにしている。また、青木(2015)は、心に残った絵本の発表を受講生に求めることを通して、学生が親しんできた絵本の実態を年代順に整理をしている。そして、佐野(2018)は、保育者志望の学生が幼少期に読んでもらった記憶のある絵本を整理するだけでなく、大半の学生が絵本に対して積極的に関わることや学ぶことを介した意識が肯定的であること、絵をしっかりと見せながら読むといった基本的な技術については自信を持っているものの絵本に関する知識や絵本の読み聞かせに適した環境構成といった技術について自信がないと答えた割合が高いことを示している。これらの研究は、絵本という側面から受講生の実態を捉え、授業内容に絵本を取り入れることの有効性、受講生の課題解決に必要な基礎的知見を提供するものだと考えられる。

一方、受講生の実態把握に留まらず、絵本の読み聞かせを向上させる取り組みが、授業内学習において試みられている。例えば、西川(2002)は、保育者と幼児の役割だけでなく、6つの評価観点を定めた5段階での評価及び今後の課題を自由記述する評価者の役割を設定した絵本の読み聞かせを向上させる実践を授業の一部で試行している。南(2009)は、受講生が絵本の読み聞かせの際に重要視している4つの視点を見出し、当該の視点を絵本の読み聞かせの評価活動に活用した実践を行うとともに、読み手の表情、リズムや抑揚、速度の変化を工夫しながら絵本の持つ肌理を手渡しすることの必要性を指摘している。そして、玉瀬(2012)は、保育専攻学生の絵本の読み聞かせ技能、知識や態度といった多面的な実態把握を行うだけでなく、読み聞かせ経験の有効性を実証的に示している。これらの研究は、読み聞かせスキル向上に寄与する有効な評価観点を提供するものとなる。

こうした中、吉永・結城・山瀬・廣井(2014)は、保育表現技術として絵本の読み聞かせに焦点を置くとともに、現場において読み聞かせをする可能性の高い絵本4冊を選定し、ビデオ映像を踏まえながら省察に利用できる総計10観点からなる自己評価シートを開発している。当該研究は、絵本を活用した授業内学習に読み聞かせの評価観点を定めた省察活動を組み込む視点を提供する上で意義のあるものだが、保育教材としての絵本を考える際、暗黙裡に選定された絵本を読み聞かせる取り組みだけで果たして良いのだろうか。秋田・増田(2009)は、各年齢段階における乳幼児に生起する

事象を交えながら当該時期に合致する絵本総計 150 冊を示している。このことは、絵本の読み聞かせの重要性だけでなく、読み聞かせをする絵本という作品自体の捉え方や選定自体にも意を払う必要性を示している。そのため、絵本選定の重要性に鑑み、教材開発の視点から絵本を捉えることも必要となるだろう。こうした視点から授業実践を展望した際、絵本作成と読み聞かせを踏まえた授業実践もなされている。淡野・内田(2015)は、授業内学習での絵本作成や作成された絵本の構成を報告することに加え、作成した絵本を用いて 5 歳児を対象とした読み聞かせの演習を行っている。その結果、幼児の目を引く絵本は色鮮やかなものであるが、幼児が最も集中した絵本は他と比べて各ページの主題に関するものが明瞭に描かれ、文字が認識しやすい大きさであったことを示している。一方、野中(2017)は、保育の心理学¹の授業構成を授業内外の学習を踏まえて構成し、授業外学習を活用して作成された絵本の特徴や苦労した内容、授業内学習での絵本の読み聞かせを介してスキルを向上させたいと受講生が考えていることを明らかにしている。しかし、当該研究は、作成絵本の活用法の課題、評価観点を定めた自己省察の欠如等、授業内学習での実践に改善すべき内容がある。

以上のことから、野中(2017)に基づき授業内外の学習を接続する一方策として授業外学習での絵本作成に着目するとともに、授業内学習で絵本を活用した改良版の実践を行った。本研究では、授業内学習に絵本を活用し、受講生自身による作成した絵本の再考、読み聞かせ実践、当該場面を録画したビデオ映像視聴による観点を定めた自己評価及び他者評価に基づく省察を行い、絵本の読み聞かせスキル向上を目指すために実施した探索的な実践報告を行うことを目的とする。

Ⅱ 方法

1. 受講生

平成 29 年度 1 学期に開講された保育の心理学²を受講した高知大学教育学部幼児教育コース所属 2 年生の 11 名であった。

2. 絵本作成課題と絵本に関する授業内学習³

絵本作成課題は、作成材料を野中(2017)と同様の工作キットによる「白無地絵本 (A4 判)」とすること、作成する絵本のテーマを「幼児の好奇心を育む絵本」にするという制約以外、ストーリー構成や各ページの利用、想定する対象幼児の年齢等は自由とした。

1 回目の授業では、授業外学習として「絵本」を作成してもらうことを教示した。2 回目の授業の冒頭では、「好きな絵本」を回想させ、なぜその絵本が好きなのか、絵本の魅力を紹介しあう活動を行った。3 回目の授業以降の冒頭では、受講生の 1 人が保育士役、他の受講生が幼児役を演じ、模擬場面において著者が選定した 1 冊の絵本の読み聞かせ活動を 1 人 1 回実施した。また、8 回目の授業では、絵本作成課題のねらいや構想を発表し、他者から意見をもらえる機会を設けた。13 回目の授業では、作成してきた絵本の内容や特徴を検討させ、絵本の教材としての価値を再考するとともに、200 字以内で作成した「あらすじ」の紹介を行った。また、作成した絵本の読み聞かせ実践を行い、他の受講生からポジティブフィードバックを受けた。14 回目の授業では、13 回目に実施した自分自身を含む総計 11 名の読み聞かせを録画したビデオ映像を視聴し、玉瀬(2012)や吉永・結城・山瀬・廣井(2014)等を参考に作成した 12 観点を備えた 5 段階評価シートによる評価を行い、自己評価及び他者評価に基づく省察⁴を行った。その後、当該実践に関するアンケート⁵に回答を求めた。

Ⅲ 結果と考察

1. 作成された絵本の特徴

Table 1 には、作成された絵本毎に題名、キャラクター属性、絵本再考の一部として作成者より記述された絵本のあらすじが整理された。各絵本の表紙及び特筆すべき工夫は、Appendix に掲載した。

Table 1 作成された絵本

作品No	作成絵本題名	キャラクター属性	作成者により記述された絵本のあらすじ
1	きょうは	人間	ある日曜日、まあくんはパパに「あそぼう」と言いますが、「今日は仕事」と断られ、お隣の家のみかちゃんにも「用事がある」と断わられます。がっかりしてひとりで遊んで家で帰ると、パパ、ママ、みかちゃんが大きな箱を持って立っていました。まあくんが箱をはけると、「たんじょうびおめでとう」と書かれたケーキがありました。まあくんの今日はとても素敵な日になりました。
2	おたんじょうびのひに	人間	めいちゃんは、4歳のお誕生日にお母さんからおばあちゃんに手紙を届けるといっておつかいを頼まれました。元気に出発しためいちゃんは、友達のおつかいと一緒に雲を見たり楽しんでどんどん進んでいきます。しかし、思わぬ風で手紙が飛ばされてしまいます。泣き出しそうなおつかいちゃんに助けられ、手紙も無事におばあちゃんに届けられます。友達のおつかいの達成感を味わえます。
3	さっちゃんはおねえちゃん	人間	さっちゃんのおうちに赤ちゃんややんがやってきました。おねえちゃんややんは、おかあさんが妹のみいちゃんのお世話でも大忙し。さっちゃんややんはとってもさびしい気持ちでした。ある日、おかあさんが忙しいので、おじいちゃんのお家に遊びに行くドアに小さい穴が。のぞいてみると、さっちゃんややんの赤ちゃんややんの風景がありました。そこでのお母さんのさっちゃんややんへの優しい言葉にさっちゃんややんはうれしくなるのでした。
4	さかなのおうち	動物	森の池で暮らす魚が、狭い世界での生活に飽きて、広い世界に行きたいと海に行くことを決める。海に着き、その広い世界に感動したり、友達ができで遊んだりして楽しむうちに、家に帰らないといけない時間になってしまふ。友達になった魚が自分の家に帰っていくのを見て、魚も自分の池に帰りたいくなる。池に帰ると、やっぱりこの場所が落ち着くと感じ、自分の家はここなんだと実感する。そうして、自分の池が大好きになる物語である。
5	だって	人間	5歳のお兄ちゃんよっくんが主人公のお話。妹のさんごちゃんよっくんは、1歳でいるんなことをしたがりです。よっくんは、さんごちゃんを止めたり、さんごちゃんややんの行動に気をつけていきましたが、いつもは知られるのは、よっくんでした。でも、かあちゃんややんが、ある時気づいてくれて、よっくんの行動をうけとめてくれました。そして、そのあとよっくんは、自分の口で、意見を伝えられるようになっていきました。
6	ちいさなちいさな2ひきの おおきなおおきなぼうけん	動物	ちいさなちいさなリスの姉妹のレルとロロ。2ひきはお気に入りの赤と緑のむざむざ帽子をかぶって、今日もお出かけ。知らない道を見つけて、「この先はなにがあるのかな？」と冒険をはじめます。道の途中で、うさぎさん、きつねさん、ためきさん、くまさんに出会います。6ひきは一緒に道を歩きます。1日が終わる頃に6ひきが見つけたものは、きれいな夕日と、みんなの笑顔でした。
7	ちよつとそこまで	人間と動物	ある日、あんちゃんややんが家をとびだしてある場所に向かう。道中で、近所や地域の人たちと出会い、どこへ行くのか聞かれるが、あんちゃんややんは「ちよつとそこまで」としか答えない。持っていたお金で目的のものを買って帰る。家へ着いたあんちゃんややんは買った花東をお父さんとお母さんとお母さんにプレゼントする。あんちゃんややんは、お父さんとお母さんの結婚記念日をお祝いするために1人で花屋さんに買ったのだった。
8	だんごろうとありお	動物と昆虫 人間	あいこさんという1人暮らしのおぼさんの家には庭があり、そこにはだんごむしのだんごろうとありのありおが住んでいました。ある日、だんごろうとありおは遊び疲れてへとへとになってしまつたので、大好物の食べ物を探しに行くことにしました。草や木、たくさんの生き物が生えている中、だんごろうとありおは大好物を見つけて、一緒に笑いかないがら食べました。
9	わたげのぼぼちゃん	植物	あたたかくなると綿毛は飛ばないといけませんが、ぼぼちゃんややんはなかなか飛ばずにいる。そこに風が吹いて飛ばされてしまふ、空を飛んでいると、同じように1つ残された綿毛を見つづける。ぼぼちゃんややんが声をかけ、2人で一緒に飛ばされてしまふ。長い間飛んで原つた2人は、そこで休む。そして、次の年にたんぼぼちゃんになる。
10	みんなであそぼうよ	動物	1人で寂しかったうさぎが友だちを探しに行く。友だちに会い、「一緒に遊ぼう。」という声をくり返していき、4人で遊ぶことになった。歩いていく途中で、友だち同士がぶつかってしまふが、お互いに謝ることで仲直りする。遊びたいことが2つに分かれてしまつたときは、みんな話して、じゃんけんや順番を決めることで、最後は4人で仲良く遊ぶことが出来る。
11	トマトのき	人間と植物	トマトが嫌いな男の子のまあくんが、トマトを食べたくないあまりに、庭にうめ隠してしまつた。すると、芽が出てきて、その芽はどんどん大きくなり、トマトの木に成長した。そのトマトの木になったトマトを食べると、今まで食べたことのない味がしてとてもおいしかった。それから、まあくんはトマトを嫌いでなく大好きになった。

作成された絵本の中で「動物」あるいは「植物」が登場する作品は、「No 11; トマトのき」を除き、程度差はあるものの擬人化表現されたキャラクターが登場していた。このようなキャラクターを擬人化表現する傾向は、本研究だけでなく、淡野・内田(2015)や野中(2017)でも見出されていた。今後は、絵本を作成する上でキャラクターを擬人化表現する傾向がなぜ生起するのか、絵本の内容に付随した擬人化表現に何か特徴がみられるのかといったことを詳細に検討していく必要もあるだろう。

作成された絵本のあらすじについては、200字という制約があったが、自分自身が作成した絵本の内容を再考し、整理出来たものだと考えられる。本実践の中では、「No 1」や「No 2」及び「No 7」のような誕生日や両親の結婚記念日といった何らかの記念日を取り上げたもの、「No 3」や「No 5」のような兄弟姉妹の関係を基軸にストーリーが構成されているものといったあらすじの内容に特化した際、同質性がある内容もみられた。なお、このあらすじに鑑み、受講生が当該絵本を実際の保育のどのような場面で活用したいと考えているのかを検討する必要も考えられた。

特筆すべき工夫の具体としては、「No 1」に開くとケーキが飛び出し音楽のなるページがあったこと、「No 7」に開くと折り紙で緻密に作成された花束が飛び出すページがあったことが挙げられる。また、「No 6」、「No 7」、「No 10」では、繰り返し構造を活用していたことも挙げられる。そして、裏表紙を巧みに活用した絵本が8作みられ、ストーリー中の内容やその後の展開を想起させ、絵本の読み聞かせに余韻を持たせる工夫がなされていた。一方、作成された絵本を科学的あるいは現実的な視点から捉え直した場合、保育教材としての留意点も示された。具体的には、「No 4」のように擬人化された魚ではあるが、池から海への移動ということに鑑みた場合、淡水と海水の両方で生きていける魚とはどういうものがあるのかを確認しておく必要があるだろう。また、こうした絵本を通して幼児の科学的思考がどのように芽生えていくのか検討していくことも重要だと考えられる。

2. ビデオ視聴に基づく絵本の読み聞かせの自己評価及び他者評価を踏まえた特徴

自分自身を含む総計 11 名の読み聞かせを録画したビデオ映像を視聴し、各受講生の読み聞かせ事例ごとに、玉瀬(2012)や吉永・結城・山瀬・廣井(2014)等を参考に作成した 12 観点を備えた 5 段階評定シートによる評価を行った。当該の自己評価及び他者評価を踏まえて授業内学習では省察活動を実施した。本研究では、当該実践より見出された受講生の読み聞かせスキルの全体的傾向の結果を報告する。まず、各受講生の読み聞かせに対して、12 観点的読み聞かせスキルをそれぞれの程度達成出来ていたかの程度を見いだすため、11 名による評価から平均値を算出し、各受講生の読み聞かせスキル得点とした。各受講生の読み聞かせスキル得点を基に各受講生間のユークリッド距離の平方を求め、クラスター分析(Ward 法)により受講生の分類を行った(Cophenetic' $r=0.67$)。その結果、解釈のしやすさから 2 クラスター解を採用した(Table 2)。

Table 2 各クラスターにおける 12 観点的読み聞かせスキル得点

受講生 クラスター	表紙の 絵の見せ方		絵の 見せ方		ページの めくり方		絵本の 持ち方		表情		姿勢	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
第1(3)	3.73	0.13	3.97	0.17	3.85	0.41	4.21	0.19	3.97	0.04	4.12	0.15
第2(8)	3.81	0.21	4.07	0.28	3.94	0.11	4.10	0.32	3.27	0.19	4.02	0.19

受講生 クラスター	声の 大きさ		声の 明瞭さ		読む スピード		間の 取り方		感情の こめ方		余韻	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
第1(3)	4.61	0.04	4.45	0.07	4.18	0.30	3.82	0.20	4.27	0.39	3.45	0.20
第2(8)	3.73	0.35	3.68	0.31	4.20	0.30	3.94	0.26	3.66	0.23	3.52	0.21

()内は所属受講生の人数を示す

表情($F(1, 9)=33.07, p<.001$), 声の大きさ($F(1, 9)=15.57, p=.003$), 声の明瞭さ($F(1, 9)=14.63, p=.004$), 感情のこめ方($F(1, 9)=8.42, p=.018$)の4観点にはクラスター間の差がみられた。すなわち, 表情, 声の大きさ, 声の明瞭さ, そして感情のこめ方といった読み聞かせスキルは, 第1クラスターに所属する3名の方が第2クラスターに所属する8名よりも高かった。この結果に鑑みれば, 第2クラスターに所属する8名に対しては, 4観点の読み聞かせスキルを向上させる課題を与えることも有効だと考えられる。しかし, Table2の結果が示す通り, 12観点全てのスキル得点は中央値である3.00以上であったため, 総じて本受講生の読み聞かせスキルは高いものであった。この結果については, 西川(2002)の読み聞かせの評価が保育実習後に厳しくなることに鑑みれば, 当該受講生に対して実習後再度ビデオ映像視聴による観点を定めた自己評価及び他者評価を実施させた場合, 結果がどのようになるか縦断的な検証も必要となるだろう。

3. 受講生の省察により見出された課題

アンケートの自由記述の中で最も多かった内容は, 7名にみられた読み聞かせの際の自分自身の表情を取りあげたものであった。具体的な記述としては, 「スピードは良かったけれど, 声ははつきりしなかったぶん, 間延びしているように聞こえてしまった。はきはきと読むことが課題である。また, ずっと絵本を見ていたので, 感情に合わせて表情を変えて, それが相手に見えるように出来るようになることも課題だと思う。そして, 子どもたちの様子や表情を見たりできるようになりたい。」といったものであった。なお, 受講生による自由記述の内容は, 本研究で採用した12観点を備えた5段階評価シートの枠組みから整理することが可能であった。このことは, 吉永・結城・山瀬・廣井(2014)が指摘している通り, 読み聞かせの省察に利用できる観点を設定したことの有効性と捉えることができるだろう。しかしながら, 12観点を備えた5段階評価シートは, 単純な5段階による評価に留まるのではなく, 各段階の評価得点に対応する特徴を具体的に記述したものへの改善, すなわち観点別ルーブリックとして発展させていくことも重要となる。加えて, 当該の12観点の精緻化や観点間の類似性等も検証していかなければならない。そして, 受講生が自らの読み聞かせスキルの中で課題として見出した視点に基づき, 当該の視点を解決することができる授業外学習を自ら試行及び実施する足場づくりを提案していくことも受講生の学びに有効となるかもしれない。

IV 総合的考察

授業外学習において作成された絵本は, 野中(2017)と同様に授業内外の学習を接続するものとして活用出来た。すなわち, 授業内学習では, 絵本作成に時間を割かれず, 受講生が作成した絵本を資源とした絵本の再考, 読み聞かせ実践を実施することが出来た。しかし, 絵本作成を授業外学習として求める以上, 絵の描き方やストーリーに関する専門的な学習支援も必要となるかもしれない。また, 「幼児の好奇心を育む絵本」という絵本作成課題に鑑みれば, 作成された絵本が実際に幼児の好奇心に及ぼす影響過程を検証していくことも求められる。加えて, 受講生が作成した絵本は, 想定した対象年齢の幼児にどのように捉えられるかも緻密に見取っていくことも重要となるだろう。

受講生の読み聞かせを録画したビデオ視聴による自己評価や他者評価を介した省察は, 評価観点を定めることにより読み聞かせスキル向上に寄与するものと考えられる。無論, 評価観点については, ルーブリック開発等の課題も見られた。しかし, このルーブリック作成自体を授業内容に取り入れ, 受講生の読み聞かせスキル向上に役立たせることも出来るのではないだろうか。なお, 保育者志望の学生が絵本の読み聞かせに適した環境構成の技術に自信がないこと(佐野, 2018)も示されているため, 自分自身が作成した絵本を保育者としての保育教材の1つとして活用する際, どのような環境構成が望ましいか等を授業内で議論することも意義のある取り組みになると考えられる。

本研究は, 野中(2017)に基づき授業内外の学習を接続する一方策として絵本に着目し, 授業外学

習で絵本作成を求め、授業内学習で絵本を活用した改良版の実践を探索的に行った。そのため、授業内学習については、受講生自身による作成した絵本の再考や当該場面を録画したビデオ映像視聴による観点を定めた自己評価及び他者評価に基づく省察という実践を参照しながら、受講生の学びの実態の一側面を報告したにすぎない。今後は、授業内外の学習を接続するという視点に鑑み、絵本という資源が受講生の授業内外の学習にどのような影響を及ぼしたのか、あるいは実際に費やすこととなった学習時間等も併せた検討が必要となるだろう。無論、大学教育に携わる者には、専門性を活かした授業デザイン及び実践を展開しながら、対峙する大学生の実態に応じた授業改善が求められる。そのため、探索的な実践ではあるが、保育者養成課程等の見直しに付随し、教授内容再編の時期に報告されたことは、保育者養成の今後の授業内容を深める一助になったと考えられる。

註

- 1 「保育の心理学」という授業科目名ではあるが、保育士資格の「保育の対象の理解に関する科目」系列の「保育の心理学Ⅱ（演習科目1単位）」に該当すると明記されている。
- 2 授業名称は、「保育の心理学」であるが、保育士資格の授業科目に鑑みれば、保育士資格の「保育の対象の理解に関する科目」系列の「保育の心理学Ⅱ（演習科目1単位）」に該当する。
- 3 本研究は、紙幅の都合から、授業内容の中でも絵本に関連する内容のみを記載している。
- 4 本研究の省察活動は、自分自身の読み聞かせ場面を含むビデオ映像を評定シートによる自己評価だけでなく、他者評価を踏まえた意見交換の2側面から自分の読み聞かせを省察するというものであった。本研究では、受講生の読み聞かせスキルの全体的傾向を評価得点により捉えた内容の報告を行う。
- 5 本研究では、アンケートの中で受講生の自由記述により回答を求めた「自分自身の絵本の読み聞かせ映像を視聴するとともに、自己評価や他者評価を踏まえて実施した省察活動を介して貴方が考えた課題」についてのみ抜粋した報告を行う。

引用文献

- 秋田喜代美・増田時枝(2009). 絵本で子育て—子どもの育ちを見つめる心理学— 岩崎書店
- 青木文美(2015). 「心に残る絵本」の発表に見る絵本の捉え方変容過程を追う—絵本の選択力育成に関する一考察— 愛知淑徳大学論集—福祉貢献学部篇—, 5, 1-14.
- 保育士養成課程等検討会(2017). 保育士養成課程等の見直しについて(検討の整理) [報告書] Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000189068.html> (2018年11月1日)
- 厚生労働省(2017). 保育所保育指針—フレーベル館.
- 前田麦穂・加藤靖子・坂田真啓・橋本鉦市(2014). 専門職養成における能力形成の認識構造—6種の専門職の養成機関長への質問紙調査から— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 54, 133-149.
- 文部科学省(2017). 幼稚園教育要領—フレーベル館
- 南 元子(2009). 小学校教員・保育者養成校における絵本の位置 愛知教育大学幼児教育研究, 14, 55-60.
- 無藤 隆(2018). 今後の幼児教育とは—無藤 隆(編) 10の姿プラス5・実践解説書 (pp.118-127) ひかりのくに株式会社
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領—フレーベル館
- 西川宏子(2002). 保育学生における絵本の読み聞かせの理論及び方法の修得に関する研究—絵本を読み聞かせられる立場に立つ経験を取り入れることを通して— 中国学園紀要, 1, 37-41.
- 野中陽一朗(2016). 大学生の学習タイプの類型化とタイプ別学習支援内容の評価—ラーニング commons における学習支援内容に着目して— 日本教育工学会論文誌, 40(Suppl.), 61-64.
- 野中陽一朗(2017). 授業内外の学習を接続する絵本作成—保育の心理学での実践を参照しながら— 高知

大学教育実践研究, 31, 169-176.

佐野友恵(2018). 保育者志望学生の絵本体験に関する研究 教育学研究論集, 13, 17-24.

千古利恵子・中條敦仁(2009). アンケート結果をもとにした「絵本の読み聞かせ」試論—保育・教育現場における読み聞かせの目的を考える— 京都文教短期大学研究紀要, 48, 54-64.

玉瀬友美(2012). 「保育」の教育における読み聞かせ経験—その教育心理学的研究— 風間書房

淡野将太・内田 裕(2015). 保育学教育としての絵本作成 島根大学教育臨床総合研究, 14, 167-179.

山田秀江(2017). 「絵本の読み聞かせ」に関する一考察—学生の読み聞かせ体験の実態調査より— 四條
啜学園短期大学紀要, 50, 38-47.

吉永安里・結城孝治・山瀬範子・廣井雄一(2014). 保育表現技術の自己教育プログラム構築—絵本の読み
聞かせの技能向上を目指して— 國學院大學人間開発学研究, 6, 111-120.

付記及び謝辞

本研究は、平成 29 年度 1 学期に高知大学で開講された保育の心理学で実施された。平成 29 年度
の保育の心理学を受講し、授業に熱心に取り組んだ 11 名の受講生に甚深の感謝の念を表します。

Appendix 受講生の作成した絵本表紙一覧及び特筆すべき工夫

(一部加工した部分は、名前を記載した受講生の実名記載を倫理的視点から避けるためである)

